シリーズ回想 令和4年度自衛隊音楽まつり 101

コロナ禍でどうする？ 令和4年度自衛隊音楽まつり

陸上幕僚監部広報室　2等陸佐　長谷川　紫乃

1 はじめに

平成初期に母親に連れられ日本武道館にて自衛隊音楽まつりを鑑賞した小学生は、感動に打ち震え、その場で「自衛隊かっこいい！　私も自衛官になる！」と決意。その小学生は成長し、陸上幕僚監部広報室に所属する自衛官となり、令和4年春から秋にかけて自衛隊音楽まつりの実施本部企画班長として、不安で眠れない日々を過ごすことになりました。

2 自衛隊音楽まつり実施本部企画班長とは？

自衛隊音楽まつりは、自衛隊記念日行事として行われる防衛大臣主催の広報イベントです。陸上幕僚長が実施責任者、陸幕広報室長が実施本部長となり、演出、警備、来場者の公募抽選、受付、招待者の接遇など、運営に係るあらゆる業務を統括し、その細部を役務業者、各部隊、他省庁などと調整して企画するのが、企画班長の任務です。

令和4年度音楽まつりには、いくつかの特性がありました。第1は、コロナ禍です。人を集めた広報イベントである一方、感染症対策は万全にしなければならない。また、令和2年度、3年度はコロナ禍で中止。3年ぶりの開催でした。第2は、省として「音楽まつりのターゲットは青少年層」と決定したことです。演出テーマや演目を青少年向けに設定するとともに、大臣等による招待基準を明確化し、公募抽選に当選した来場者の座席数を大幅に増大することとなりました。第3は、これまで自衛官が担ってきた運営を、部分的に業者に委託したことです。会場内外の警備や交通整理、来場者の受付・案内、救護など、民間企業が負える業務は部外委託しました。安全保障環境が厳しさを増す中、部隊の人的資源を各種事態への対応や教育訓練に傾注するための方策でした。

これらの特性から、令和4年度は「コロナ禍における新たな音楽まつり」としての企画・運営が求められ、その課題山積に、企画班長は、音から「11月の開催に沿い音はするのか」と不安に駆られていたのです。

3 コロナ禍でやるべき」とは？

令和元年度以前の音楽まつりは、自由席制のため開場数時間前から来場者が会場外に行列を形成し、開場後は当選ハガキや招待券を受付要員がもぎり、より自信ある来場者に対して誘導要員が大声で注意喚起をするという状況で、コロナ禍で浸透した「3密回避、非接触、飛沫防止」とは対照的な様相でした。

では、コロナ禍のイベントでは何をすべきか。政府などが示す感染防止策に基づき、マスク着用、検温・消毒・換気の徹底、来場者の連絡先把握など、目指すべき態勢は明確です。しかしながら、これらと広報イベントとしての理想像を両立させようとすると矛盾が生じます。来場者の密を避けつつ、警備上必要な手続きは省かずスムーズな入退場を追求しなければなりません。またQRコードなど、青少年に適した非接触による受付要領も必要です。

関係者と度重なる協議・検討を行い、指定席制の導入、メールによる当選通知と受付、入退場動線の整理、招待券券による来場者把握など、対策の具体化を図り、期日ギリギリでチラシなどの印刷を発注し、なんとか9月末からの2週間の公募受付期間を設定することができたのでした。

迫力のある太鼓隊

令和4年度の目玉の一つとして、日米の音楽隊が映画「トップガン」の楽曲を演奏しながらF－35戦闘機のシルエットをマーチングで形成し、演奏終盤に陸上幕僚監部広報室に隔離した後、来賓に対して防護班が救護室を徹底的に消毒。検査の結果、ゲストバンドの患者はコロナ陰性であったものの、日本人とはワクチン接種歴が異なることから、万が一重症化したらどうするか？と一時は肝を冷やしました。

このほか、来場者の入退場に要する時間が予想以上であったこと、指定席制に起因するクレーム対応、来賓本部および出演部隊の負傷者発生、招待者来賓の不備など、公演中にも幾多の課題が発生しましたが、11月17日から19日にかけて行ったリハーサル公演を含めた全7公演は、メインテーマ「WITH」に基づき、コロナ禍の2年間に実現できなかった時間・空間を来場者と共有しての終演となりました。

メインテーマの「WITH」

4 感染をしない、させない、準備訓練

10月下旬、全国の自衛太鼓チームが朝霞駐屯地に集合し、最終的な訓練を開始しました。11月上旬には音楽隊の合同訓練、ゲストバンドを迎えた総合訓練など、演出は完成間近となりました。しかし企画班長の心配ごとは尽きません。出演者が新型コロナウイルスに感染すると、演出に影響します。音楽まつりはハイレベルな演奏、迫力ある演舞はもちろんですが、自衛隊らしさを感じさせる統制美、斉一なマーチングもその魅力です。

企画班長として「感染しない、させない」を徹底するしかない。一例として朝霞駐屯地に集合している出演者には外出を制限、寝会は禁止としました。また、公演中の来場者には出演者の家族、友人もいて、衣装を着た隊員と会場外で記念撮影したい、直接激励したいといった希望もあることが承知で、公演期間中の出演者と来場者との接触は禁止としました。

5 課題が多発？の本番公演

それでも感染者は発生しました。公演当日、ある部隊は患者発生により当該楽器パートの人員を総入れ替えとしました。ゲストバンドの1人が発熱し、救護班が発症。実施本部特ナ禍の2年間に実現できなかった時間・空間を来場者と共有しての終演となりました。

6 おわりにポストコロナでどうする？

令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症は感染症法の分類上5類となり、世間はポストコロナとして動いています。私自身は令和5年度の実施本部編成では企画班長から企画部長へと昇格しました。

振り返ると、令和4年度音楽まつりは「コロナ禍に還ってきた音楽まつり」でしたが、今年は省の一大広報イベントとしてPRを強化し、昨年は叶わなかったことを盛り込み企画したい。具体的には指定席と自由席を併用した座席制度、会場外における配念写真撮影ブースの設定、受付要領の変更などを検討しています。

そして何よりも、自衛隊音楽まつりを多くの来場者に楽しんでもらいたい。青少年やご家族に自衛隊へ興味を持つきっかけとしてもらいたい。自衛隊のかっこいいところをぜひ観てもらいたい。そう切望しています。なぜなら、私自身がかつてはステージの自衛官を観て憧れた小学生であり、今では自衛隊が将来の職業の選択肢となり得る子供を持つ母親だからです。音楽まつりには、大きな広報的価値があることに自信を持っています。今年のテーマは「＋（タス）×（カケル）」ビビッド　終わらない力の始まり」です。9月上旬には公募受付を開始する予定です。

「おやばと」読者の皆さまにも抽選にお申込みいただき、ぜひ日本武道館にお越しください。再始動した広報活動として、自衛隊とゲストバンドの魅力が掛け合わさった壮大なステージをお届けすることをお約束します。

「自衛隊の学校・今昔物語」㉗

陸上自衛隊・富士学校（普通科）

【普通科職種の紹介】

自衛隊の普通科という職種は、他国の軍隊における歩兵（infantry）に相当します。

普通科部隊は、諸職種協同部隊の基幹となり、火力と機動をもって、特に強靭な近接戦闘を行い、敵を撃破または捕捉し、あるいは必要な地域を占領確保して、戦闘に最終の決を与える重要な役割を果たします。地域を占領確保することができる職種は唯一、普通科職種だけであり、このため陸上自衛隊の任務遂行にとって必要不可欠な存在であります。また、各種地形・気象を克服し、いかなる時期および場所においても戦闘を遂行することができます。

普通科職種は、陸上自衛隊の約30％を占める、最も人員の多い職種です。

戦後、普通科部隊は1950年（昭和25年）警察予備隊創設の際に、12個普通科連隊が創設され、54年（昭和29年）保安隊から自衛隊へと改組された際に18個普通科連隊へ増強、その後、米ソ冷戦の影響を受け、62年（昭和37年）には43個普通科連隊となります。2001年（平成13年）以降、新たな脅威や多様な事態への対応および南西防衛態勢を強化するため、普通科部隊を母体とした各種部隊が編成され、23年（令和5年）現在では、43個の普通科連隊と即応機動連隊、水陸機動連隊、離島警備部隊等の部隊をあわせ63個の普通科部隊が全国に配置されています。

全国各地に駐屯する普通科部隊は、隊区という責任地域を持っており、災害派遣の分野においては、自衛隊発足以来、58年（昭和33年）の狩野川台風に伴う災害派遣を始めに、暴雪や地震、噴火など、数々の災害派遣に参加しています。特に、95年（平成7年）に発生した阪神・淡路大震災は、それ以降の自衛隊の災害派遣に大きな影響を与えました。初動派遣部隊を編成して24時間待機態勢を維持し、常に災害派遣に備えることにより、後の東日本大震災、新潟中越地震、熊本地震、御嶽山噴火に伴う行方不明者の捜索、北部九州豪雨等の各種災害において、人命救助、行方不明者捜索、民生支援など、幅広い任務で災害派遣に出動して民生の安定に寄与しています。

また、各種国際平和協力活動における警備部隊等として国際貢献活動に従事するとともに、自衛隊による在外邦人等の陸上輸送を担当するなど、多岐にわたる任務を完遂しています。

【歩兵～普通科　教育の歴史】

日本における近代歩兵の歴史は、明治政府が1872年（明治5年）2月、陸・海軍省を発足、同年11月に「徴兵の詔（みことのり）」が発せられ、翌73年（明治6年）1月に徴兵令を発布して、国民皆兵の第一歩を踏み出したことに始まります。

73年（明治6年）6月、最大規模の大名庭園を有していた旧尼張藩下屋敷跡（現在の新宿区戸山）に陸軍兵学寮戸山出張所が設置され、翌74年（明治7年）2月、陸軍戸山学校と改称されます。そこでは、射撃、銃剣術、体操、攻守戦法、操練、諸勤務、喇叭（らっぱ）の教育が行われていました。

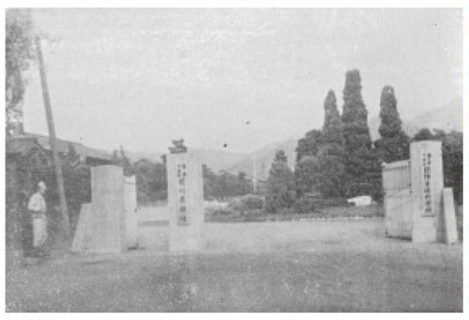
従来、歩兵に関する教育、研究は陸軍戸山学校で行われていましたが、日露戦争の経験などから軍の主兵としての歩兵の教育、研究が重要視されたことと、東京のような市街地では戦闘教練等が困難であったことから、歩兵に関する教育、研究は分離し、戸山学校には、体操科、軍楽生徒隊が残りました。戸山学校は、1945年（昭和20年）9月に閉校し、跡地は戸山公園となっています。

12年（大正元年）9月に戦術科、射撃科、教導大隊が分離され、広大な下志津原演習場を控えた千葉近郊（現在の千葉市稲毛区天台）に大庭二郎少将を校長に据えた陸軍歩兵学校が開校されました。創立当初の学校の任務は「学生に歩兵の射撃、戦術および通信術等を習得せしめ之を各隊に普及し、かつ常に之等諸学術の調査研究を行い以て歩兵教育の進歩を図りならびに携帯火兵（註：小銃・てき弾等）、機関銃等の研究試験を行う」でした。陸軍歩兵学校は、45年（昭和20年）8月の終戦まで教育に携わりました。その後は、学校の残務処理などを実施し、同年11月に閉校して、跡地は作草部公園となっています。

戦後の普通科教育については、52年（昭和27年）1月15日に警察予備隊総隊普通科学校が福岡県久留米市に開校されました。学校の使命は「学生生徒に普通科部隊に必要な学術科を習得させると共に、之を各部隊に普及し併せて普通科に関する学術の調査及び研究を行い以て普通科教育の進歩に資する」「普通科初級幹部の養成を行う」でした。

普通科学校は、当初、広大な演習場と水源を有している富士山麓に設立を計画していたところ、予定地が米軍接収中であり、開校までに交渉がまとまらなかったため、米軍が早期返還を確約した久留米の地に設立されることとなったそうです。

そんな普通科学校が、2年後の54年（昭和29年）に富士学校の創立とともに富士学校普通科部となり、須走の地に移駐したことは、普通科と富士山との縁を感じます。なお、普通科学校があった久留米の土地は、移駐後、陸上自衛隊幹部候補生学校となっています。


普通科学校校門（昭和27年　久留米市）

現在の普通科部では、主に普通科職種の幹部が対象にした幹部初級課程、上級課程、特修課程等の一般課程、幹部や対象にした組織課程、偵察課程、上級部隊システム通信課程等の特技課程、集合教育をあわせ計30個課程など、年間約800人の学生に対し教育を実施しています。この際、強靭な陸上自衛隊創造の原動力となる普通科職種の人材を育成するため、指揮官教育、幹部候補生学校付職員の涵養を重視すると共に、教育と調査研究・訓練評価・練成訓練などとの連携による教育効果の増大に努めています。

【普通科職種の将来について】

現在、わが国を取り巻く安全保障環境は、かつて直面したことのない厳しいものとなっていることは皆さまの承知の事実であり、昨年末、わが国政府は「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」および「防衛力整備計画」の安保関連の戦略三文書を策定しました。

令和5年は、防衛力整備計画対象期間としての実行元年として、陸上防衛力の急速な整備と戦力化に着手していくことになります。

それに伴い、富士学校普通科部としては、わが国を取り巻く現在・将来の環境に適応する戦い方の創造と進化により、真に戦える態勢を確立することが喫緊の課題として、普通科の戦い方研究に取り組んでいます。あわせて、新たな戦い方を研究・検証し、その成果を教育に反映していく予定です。

いかなる時代、いかなる戦いにおいても普通科職種は陸上自衛隊における諸職種協同部隊の基幹であり、普通科としての主導性を発揮した戦い方を具体化して、総合戦闘力発揮の「基幹」として任務完遂のため「真に戦える普通科職種の創造」にまい進していく所存です。

「筆者紹介」

長谷川　紫乃（はせがわ　しの）

- 昭和59年生　神奈川県出身
- 防大51期（07B幹候）
- 職種：高射特科
- 主要部隊歴等

H19年3月　陸上自衛隊入隊
H20年3月　第2高射特科群
H26年3月　統幕総務部総務課
H26年8月　幹部学校付
H28年8月　陸幕監理部　総務課付
H30年8月　高射学校
R4年3月　陸幕監理部　総務課広報室

美佐の新国防論 150

その疲れLong Covidに伴うPEMでは？

「私は感染しない」と勝手に思い込んでいた新型コロナウイルス感染症（コロナ）にかかってしまい、すでに現時点で2カ月以上が経っているにも関わらず、まだ影響を感じる時があります。

発熱の症状は3～4日で回復したのですが、その後の状況の方がむしろ難しいということが、自分が経験して初めて分かりました。

というのは、周囲から見ると治っているのに実態は治っていないというおかしな状態が続き、何が起こっているのかよく分からなかったのです。

通常、風邪などの場合は、段々と右肩上がりに回復するものですが、コロナはそのケースとそうでないケースに大別されるようです。

家族会関係の皆さんは「走って汗をかいて飲んで治す」といった自衛官バターンを見ることが多いと思いますが、これが標準だと思ってはいけません。

私の場合は、すっかり元に戻ったつもりで仕事に出かけると、これまでにない疲労で翌日はほとんど動けなくなってしまいました。

たまたま同じような症状だったという米国在住の友人が連絡をくれて、初めて知ったのですが、彼女も回復したと思い家事など従来通りに始めたところ、動けない状態になってしまったのだといいます。

また別の米国人の友人は「Long Covid」について教えてくれて、やっと私は自分がこれなのではないかと気が付いたのです。

日本では「コロナ後遺症」という表現が使われることが多く、よくいわれているのが「味覚障害」や「倦怠感」ということで、それらが当てはまらない私は後遺症ではないと思っていました。

しかし「Long Covid」の症状は本来もっとややこしいものです。だるさがなくなって元気に動き出すのに、その後になってから代償を支払わなくてはならないというものなのです。

この症状はPEM（Post-exertional malaise）と呼ぶそうです。PEMは軽い動きや、ストレスのあと、5時間～48時間後に急激に強い倦怠感が出てしまう症状のことで、その動作の直後ではなく、1～2日後だったりすると、もはや何が原因でこんなにグッタリしているのか分からないのです。

コロナ感染後にこの症状になった人は、それまでは家や仕事に非常にアクティブに活動していた毎日が豹変したといいます。

例えば、皿洗い、子供の抱っこ、家族との会話などが後に響まじい倦怠感を引き起こす労力になってしまうのです。

「目に見えない許容範囲を超えると、私はその代償として数時間、あるいは数日の片頭痛と苦痛を支払っていました」と経験者は語ります。

ほかにも「入浴すると1日寝込む」「1時間の散歩の翌日から3日間ほぼ寝たきりになった」「ドライヤーを持っていられない」「かぼちゃを切ろうと力を入れたらだるくなって1日寝込んだ」「3メートル小走りをしただけで1週間足が痛む」等々の証言があります。

専門家の警告では「発症から2カ月（2週間ではない）は絶対に無理をしない、させない」ということです。

私自身はどうしても変更できない出張などもあり、その時は元気いっぱい前日に運動もして鼻歌交じりくらいで出かけたのに、後でひどいことになりました。

これはお友だちと快気祝いで盛り上がろう、なんていう楽しいことでも後で襲ってきますので、とにかく「調子に乗らない」ことが大切なようです。

恐怖感をあおってしまったかもしれませんが、私はむしろ生活習慣や仕事の形態などを見直す良い機会になっていると思っています。

ただ、コロナに苦しむ人は心配され、サポートも得られるかもしれませんが、単に疲れている（それも元気な時とグッタリしている時がある）人は同情もされず、一体いつまで弱っているのかと訝しがられることになりかねません。

日本ではある程度休んだら完全復帰しなくてはならない、といった暗黙の社会通念のようなものがあるような気がしますし、治ったはずなのにそうではなかったのかという繰り返しは原因が分からないと何より自分自身の精神的な苦痛にもなります。

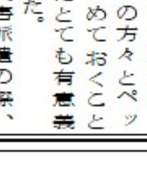
「Long Covid」や「PEM」がもっと一般的になってもいいように思います。

（執筆者プロフィール）
東京（さくらばやし　みさ）都生まれ。日本大学芸術学部卒。ディレクターなどとしてテレビ番組制作に携わった後、防衛問題研究家に。
著書に「奇跡の船『宗谷』」「海をひらく　知られざる海洋部隊「海上保安庁」」「誰も語らなかった防衛産業」（並木書房）、「終わらないラブレター　祖父母たちが語る『もうひとつの戦争体験』」（PHP研究所）、「日本に自衛隊がいてよかった！　自衛隊の素晴らしい日本大震災」（産経新聞出版）、「ありがとう金剛丸！　星になった小さな自衛隊員」（ワニブックス）、「武器輸出だけでは防衛産業は守れない」「自衛隊と防衛産業」「自衛官が語る　災害派遣の記録（監修）」「自衛官が語る　海外活動の記録（監修）」（並木書房）、「本音の自衛隊（産経NF文庫）」「危機迫る日本の防衛産業（産経NF文庫）」など多数。

きずな

「ペット防災を考える」

神奈川県自衛隊家族会　小田原地区会　会長　石原　こずえ



日本は台風、地震などの自然災害の多い国です。

毎年必ずといっていい程、何かしらの災害により被害を受けながらも力を合わせて乗り越えてきています。

地域などで行われる避難訓練への参加、また災害時に備えての食料品などの備蓄や家族での話し合いなどは今では当然のようになっているのではないでしょうか。

さて、東日本大震災を機に災害時のペットの扱い方を耳にすることが増えた気がします。

震災当時は、どうしてもペットを連れて避難することができず家に置き去りにしてしまい、自分の身を守ることが最優先と理解しながらも避難所で心を痛める方、またペット連れでは避難所に入れないからとずっと車の中で過ごし体調を崩された方もいらっしゃったようです。

そして飼い主を待ち続け残念ながら亡くなったり、つなぎっぱなしにしておくよりはとリードを放し、そのままはぐれてしまったペットたちもかなりいたようです。

そのため、飼い主の情報がわかるマイクロチップの装着が急速に進められるようになったのもこの大震災での悲しい経験が無関係とはいえないでしょう。

ありがたいことに、今では災害時のペットとの同行避難、同伴避難が話題になることも多く、それが苦手な方、アレルギーのある方への配慮は当然のことでしょう。

そんな状況もふまえた上でペット防災を考える時、周りに迷惑をかけない、また理解を得るためには日頃からペットに対する最低限の躾や衛生管理などが非常に重要であり、必要なことではないでしょうか。また隣近所の方々とペットを含めて親交を深めておくことは、いざという時にとても有意義なことだと聞きました。

自衛隊が行った災害派遣の際、救出した犬を抱く自衛官の写真を見たことがある方もいらっしゃるかと思います。

いつどこで起こるかわからない災害、その時のために小さな可愛い家族の事をもう一度考え「飼い主の役割」を果たしていく必要があるのではないでしょうか。

とは避難所など安全な場所まで一緒に避難をするということであり、ペットは避難所には入れません。

一方「同伴避難」とは、避難所で一緒に生活ができることを意味しています。

もちろん、自然災害を含め有事